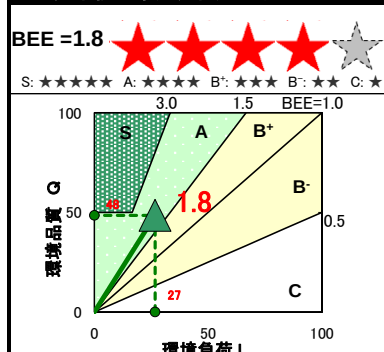
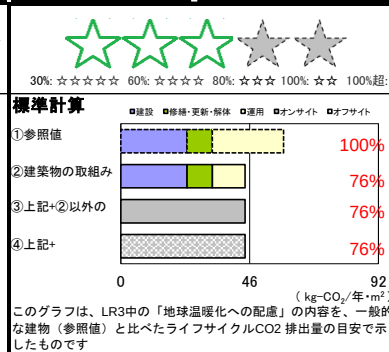


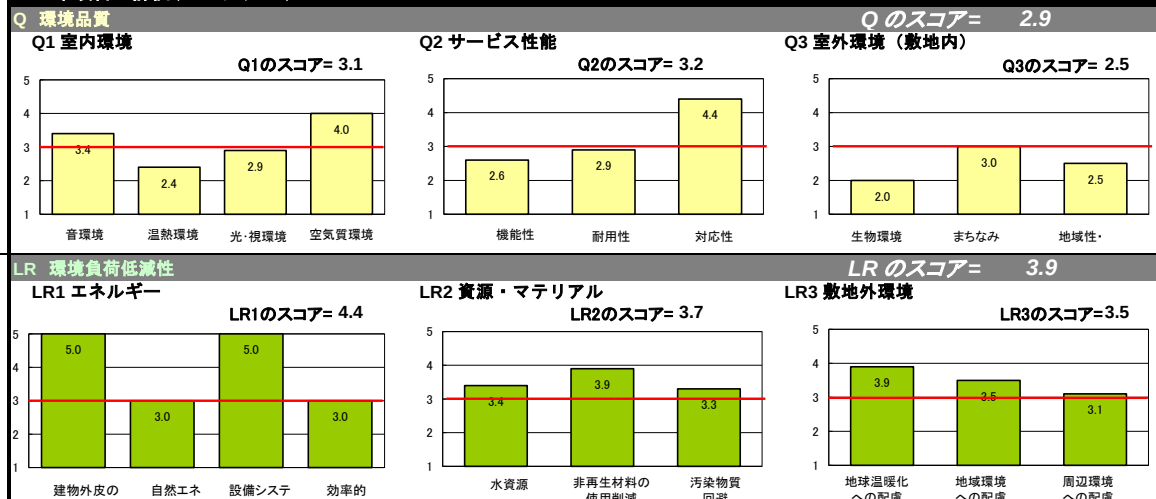
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一宮萩原ロジスティクスセンター	階数	地上4階
建設地	愛知県一宮市萩原町林野字鷺宮1番1他	構造	SRC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年7月2日
敷地面積	32,085 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	20,435 m ²	確認日	2024年7月2日
延床面積	76,531 m ²	確認者	大隈佳之

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.9	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.7	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
一宮萩原ロジスティクスセンター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階											
		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分					
配慮項目		重点項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質												2.9	
Q1 室内環境								0.30			-	3.1	
1 音環境						0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40		3.0	-		
1.2 遮音						0.4	4.2	0.40			-		
1 開口部遮音性能			T-2			-	5.0	0.60		3.0	-		
2 界壁遮音性能						-	3.0	0.40		3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	3.0	-		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	3.0	-		3.0	-		
1.3 吸音						-	3.0	0.20		3.0	-		
2 温熱環境						0.3	2.4	0.35	-	-	-	2.4	
2.1 室温制御						0.5	2.7	0.50	-	-	-		
1 室温						3.0	3.0	0.38		3.0	-		
2 外皮性能						3.0	2.0	0.25		3.0	-		
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	0.38		-	-		
2.2 湿度制御						3.0	1.0	0.20		3.0	-		
2.3 空調方式						3.0	3.0	0.30		3.0	-		
3 光・視環境						0.2	2.9	0.25	-	-	-	2.9	
3.1 昼光利用						0.3	2.4	0.30	-	-	-		
1 昼光率						3.0	2.0	0.60		3.0	-		
2 方位別開口								-		3.0	-		
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		3.0	-		
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 昼光制御						5.0	3.0	1.00		3.0	-		
3.3 照度			500lx以上1000lx未満			3.0	4.0	0.15		3.0	-		
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25		3.0	-		
4 空気質環境						0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0	
4.1 発生源対策						0.5	5.0	0.50	-	-	-		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆でVOC放散量が極めて少ない建材を全面的に採用			3.0	5.0	1.00		3.0	-		
4.2 換気						0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 換気量						3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 自然換気性能						3.0	3.0	0.33		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.33		3.0	-		
4.3 運用管理						0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 CO ₂ の監視						3.0	3.0	0.50		-	-		
2 喫煙の制御						3.0	3.0	0.50		-	-		
Q2 サービス性能						-		0.30		-	-	3.2	
1 機能性						0.4	2.6	0.40	-	-	-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	1.6	0.40	-	-	-		
1 広さ・収納性						3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応						3.0	1.0	0.33		3.0	-		
3 バリアフリー計画		独自				3.0	1.0	0.33		-	-		
1.2 心理性・快適性						0.3	3.6	0.30	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)			天井高さ3.0m			3.0	5.0	0.33		3.0	-		
2 リフレッシュスペース			リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上で自販機等の設置あり			3.0	5.0	0.33		-	-		
3 内装計画						3.0	1.0	0.33		-	-		
1.3 維持管理						0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保						-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性						0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数						-	3.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						-	2.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	3.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	5.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			主要な用途上位3種の2種以上にB以上使用、Eは不使用			-	3.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性						0.1	2.8	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備						3.0	3.0	0.20		-	-		
3 電気設備						3.0	3.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備						3.0	2.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性				0.2	4.4	0.29	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高6.0m以上	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		EPS・ケーブルラックによる配線	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		EPS・ケーブルラックによる配線	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.40	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.71	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.46	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		省水型便器、擬音装置、自動水栓、節水コマの採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減	② 独自	Fc36,F=390以上、490級鋼材、BOPの使用	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		カーペット、ビニル床、砕石	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		解体時の分別が容易な工法およびOA707採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3	-	4.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率76%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		燃焼機器の設置がなく大気汚染物質を発生しない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪駐車場・トラックバスの設置、複数出入口の計画により周辺道路の渋滞緩和に配慮	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策チェックリストの一部、広告物照明の配慮事項の過半を満たす	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

一宮萩原ロジスティクスセンター

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	3.7	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:41%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 一宮萩原ロジスティクスセンター

計画上の配慮事項	
総合	高い外皮性能を確保や、高効率設備の採用により省エネルギー性に配慮し、低炭素社会の実現に努めた計画。室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた。資源・マテリアル性に配慮し、環境負荷低減に努めた。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆かつVOC放散量の少ない建材を全面的に採用し、健全な空気質環境づくりに努めている。
Q2 サービス性能	天井高さを十分に確保し、広さ感に配慮している。ゆとりのある階高と空間の自由さ、積載荷重の計画により、設備やプランニングの自由度が極めて高い。
Q3 室外環境(敷地内)	中木・低木・被地植物等により敷地内緑化に努めている。
LR1 エネルギー	適切な断熱材を施し、熱負荷抑制に努めた。高効率設備により省エネルギー性に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	建物の節水性に配慮している。躯体材料以外にリサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量削減に努めた。ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った。
LR3 敷地外環境	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している。充実した駐車駐輪施設の計画に加え、敷地周辺への交通負荷抑制に努めた。
その他	